

平成 25 年 4 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中齋塾 北関東フォーラム

平成 25 年度第 3 回

自分の衰えを自覚する

先日、公益財団法人郷学研修所企画の日帰りバスツアーで熊沢蕃山のお墓に行きました。久喜駅からバスに乗ったのですが、隣の席は中齋塾フォーラム参与でもある荒井桂先生でしたので、ゆっくりお話が出来ました。二つほど参考になる話を荒井先生から伺いました。

年をとると、自分では年を取ったという自覚は起きないのだけれども、友人の医者から言われて氣をつけていたら、なるほどなぁと自覚したことがあったそうです。それは、「人間は嗅覚から最初に衰えてくる。香りが分からなくなったら、もう年をとったと自覚した方がいいよ」という言葉だったそうです。第二の人生・第三の人生を歩んでいたとしても、嗅覚が衰えたなら、すうーっと引退してゆくのの方がよいですね、という話を伺いました。

荒井桂先生は安岡教学の第一人者で、安岡教学の解説を色々な立場でされている方です。78 歳で私より一回り上ですので、なるほど嗅覚かと参考になりました。

また、論語の「吾十有五にして学に志す。・・・六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従いて矩を踰えず」について、最近では 80 代・90 代の方が沢山おられるから、その先は何でしょうねえ・・・という話題になりました。私が「蔵・修・息・游という言葉がありますが、色々『遊ぶ』という境地になるとよろしいですねえ」と申しましたら、荒井先生も納得されていました。

嗅覚が衰えたらそろそろ引退かなと自覚できる場合はよいのですが、認知症の場合などは、自分の具合が悪くなって頭も衰えたということを知覚することは、まず出来ません。周りの人から教えてもらう事が必要だと感じます。周りの年輩の方と話をすると、同じこと何度も繰り返す方が増えてきました。そういう時に、素直に教えて差し上げられる人間関係だとよろしいのですが、なかなかそうは出来ない。ですから自分自身、氣をつけようと思っております。

更に、引退した後にはどういう生活をするか、今のうちから考えておかないといけないと思っております。引退した後に元気で長生き出来る要件がいくつかあります。身体がまともに動いている間にパソコンをいじれるようにしておくこと。それから、倒れた後を想定して五感を訓練しておくことです。特に首から上の、目（瞼）の動かし方や口など、脳波を使う訓練をしておくといいでしょう。そこまできなければ、せめて右手、左手の指が動くように練習しておく。そうすると、脳梗塞等で倒れた後の回復の度合いが非常に早いよ

うです。また、男性なら若い女性、女性なら若い男性と話をしたり食事をしたりする。森光子さんもそうでしたが、若い異性とお付き合いする事も必要だなと感じます。

縦の学問・横の学問

私共が今、学んでいるのは、「知足」です。ベースとしては陽明学を学ぶことによって知足を身に付けて行く。そうすると自然と「判断の三原則」が身に付きます。

学問は基本的に縦の学問が必要です。ものごとを深く掘り下げてゆく学び方です。自分たちが学んでいる学問の始まり（スタート）はどういうものだったのか。今、話をしている人物は、誰に教わったのか。その師は誰に教わったのか…と遡っていく。そうすると、陽明学の歴史を調べる必要が出て来ます。陽明学を創始したのは王陽明ですから、王陽明はいったい何を求めたのか、どういう事を考えたのか、どういう足跡を残したのか調べる。一番肝心なことは、創始者の目指した所を自分自身の目的として追及していくことです。その人がどういう事を考えたのかというのではなく、どういう事を目的として学んでいったのか、その人の目的・狙いを探っていく事が本質にぶつかります。ですから縦の学問が人としての背骨になるのです。

横の学問とは、知識をどんどん増やしていくことです。

木内信胤先生と安岡正篤先生が奇しくも宮沢喜一さんの話で一致をした、という話を致します。私が木内信胤先生からたまたま宮沢元総理大臣の話をお聞きした時、「あの子はね、総理大臣なんかやっちはいけなかったんだよね。あの子は通訳としては良かったけれど、総理大臣はしない方が良かったね」とおっしゃいました。というのは、木内先生が終戦の連絡部長時代、各省庁から若手が集められた。その時に通訳の能力ありとして大蔵省から送り込まれたのが宮沢喜一さんでした。

その話を安岡正泰理事長にお話したところ、安岡正篤先生も同じことを言っておられたそうです。「宮沢さんは横の学問だけだったからねえ・・・」と仰ったそうです。横の学問、つまり知識は沢山あった。浅く広く、誰と応対しても何となく話が合わせられる。その人の興味を持っていることはいくらでも話が広がっていけるけれども、本質までは到達しない。本質を追及していくには、縦の学問をしなければだめだと安岡正篤先生は仰ったのだと思います。ですから横の学問だけの人は、親しい友・遊び仲間の友は沢山出来るかもしれませんが、心の友は横の学問からは生まれにくいと思います。

我々が目指す学びは、縦の学問です。

今まで中斎塾フォーラムでは、横の話をずっと申し上げています。話を聞いたり、テレビ・ネットを見たり、新聞や本を読むと様々な情報が飛び込んできます。それらの点在于ている情報（知識）に興味を持って取り入れていると、色々な情報が突如として繋がります。

今日は、ここ2、3日の新聞記事をいくつか持ってきました。時事評論で詳しくお話しませんが、例えば本日の日経新聞の記事、「鳥インフルエンザで92名が感染、17名が死亡」、アベノミクスに関連して「百貨店の売上げが7年ぶり3か月連続増」「トヨタがアメリカで増産投資」「マクドナルドがハンバーガー20円値上げ」・・・他にも、金融緩和・国債・食品の賞味期限・ソマリア周辺の海域の海賊対策として小銃を所持した民間警備員を乗船させる法律・・・等々の記事があります。こういったまるっきり関係なさそうな記事を読んでいくと、突如として繋がるのです。あちこちに点在している色々な現象・事例から得た自分の知識（点）が、面になります。

例えば、「マクドナルドが20円値上げ」（全体としては0.3%の値上げ）という記事に関して言えば、自分達の売上げを増やして利益を出そうとしている…これはアベノミクスの時流に乗っている。商売に関しての大きな日本の流れがアベノミクスです。アベノミクスはたまたま世界の時流に乗っている・・・という具合に、どんどん面が増えていく。横の学（知識）が混ざり合っただけで面が変わった時には、素晴らしい発見ができる。おそらくノーベル賞のレベルは、この流れの先に存在していることであろうと感じます。

我々が学ぶ学問は、縦・横・面まで行ければ、大正解です。中斎塾フォーラムでは、今まで横の学問をずっと学んで来ましたが、一般財団法人になったのを契機に、新しいスタイルを始めたいと思っています。もうそろそろ縦の学問に入って良かろうと思っています。その一環として新規講座を始めたいと思っています。まずは1年間やって、その中でテストをして、読み・書き・話す能力がレベル以上であると認められた人には、何らかの資格をお渡ししたいし、何処に行っても講演が出来るという仕組みを考えています。

恒例の質問

○ 昨日一日、嘘をつかなかった方？

嘘をつかないということが当たり前になったら、次に考えて欲しいのは、「カルネアデスの舟板」です。大海原で船が難破して、家族が海に投げ出された。気が付くと、一つの舟板につかまって漂流している。向こうから奥さんが近づいてくる。近くには子供、そして親もいる。家族がわっと寄って一つの板に皆がつかまったら、沈んでしまうのは目に見えています。さてその時、あなたはどうしますか？ おそらく親は、子を助けようとして自分につかまらないでしょう。子供だけ助けるか？ 自分は沈むか？・・・ということを詰めて考えてみてください。

しかしながら、普通の状態で考えた時とパニックになった時では違います。パニックの状態ではどう行動するか、想定しておくといろしいでしょう。パニックになっても、＜嘘をつかない＞ということが頭にあると、動きが違ってきます。私はホテルに泊まると必ず非常口を確認していますが、それはパニックになるのを想定しているからです。非常事態が発生した時には、頭のなかで真っ白になりますから、身体に身に付いたものでしか動きません。

ということで、「嘘をつかない」という質問も、皆さんが当たり前手を挙げるようになったら、一歩先の質問に変えようと思います。そういうことは横の学問ではしません。縦の学問だと、嘘をつかなくなったらその先にはどういう質問があるか、という例を申し上げました。

○ 昨日一日、良い日だったと思う方？

何か良い事があつたら、心の中にあたためておいて、夜寝る時にそれを思い出せばよろしいでしょう。夜寝る時に、良い日だったなと思えると、翌朝は爽やかです。

○ 昨日一日の中で、有難うと言ひ・有難うと言われた方？

私の実践していることを申します。有難うと言われた瞬間に、引き出しの中に入れてしまうのです。必ず一日に1回は有難うと言われる事があるでしょうから、その印象を強烈に心に留めるといふ心の動きをしています。

○ 昨日、健康法を実践した方？

これも私の実践している方法で、一番効果があるものを申します。仰向けになって寝るとお腹がへこみます。身体にお腹をへこますのを覚え込ませる。30秒くらいじっとして、後は呼吸法です。腹式呼吸で、は一つと息を吐きながらお腹をへこませる。これを何回か繰り返します。

○ 寝る時に、明日の事を過去形でイメージして眠れた方？

寝る時に、明日のことをイメージする。＜明日はこういうことをやった。それが全部出来た。良かったな・・・＞と過去形でイメージ出来るというのは、恒例の質問の中で最上級のものです。人間として凄い所まで行ったということになります。

今日の一冊

今日ご紹介する本は、『人は皆「自分だけは死なない」と思っている』（山村武彦著 宝島社）です。ちなみに2004年6月に都道府県の防災担当者の自己評価をした数値があります。一番危機管理が出来ている都道府県の第一位は、69.4点の東京都です。最下位は群馬県25.7点。平均が43.5点だそうです。さて、最下位の群馬県にお住いの皆さんは、どう感じますか？

論語解説

【一六】季氏 周公よりも富めり。而るを求や之が為に聚斂して、之に附益す。子曰く、吾が徒に非ざるなり。少子 鼓を鳴らして之を攻めて可なりと。

孔子のお弟子さんで冉求という人がいます。冉求は孔子より29歳若い。お年を召した先生が、若い弟子に苦言を呈するという場面です。

魯の大夫の季一族は、周公よりも富んでいる。それなのに、冉求が自分の直接の主人である季氏の収入を増やそうとして、領地の税金をどんどん上げている。

孔子が弟子に言われた。「冉求はけしからん。もう私の弟子とは認められない。お前たちは鼓を鳴らして冉求の罪を攻めたててもよいぞ」と。

民から税金を沢山取り立てて、強欲な季氏を助けるような動きをする弟子を見て、孔子が「お前は駄目じゃないか。自分の主君を諫めないでなんとする」と、他の弟子たちに冉求を糾弾してもよいぞと強く言った。

ただ、孔子は公の立場ではそう言っていますが、陰で（私の部分）は、お弟子さんたちに冉求を助けてやってくれるよう、フォローもしていたという記録もあります。翻って、人間には表の面と裏の面があります。清濁あわせ持っているのが人間です。我々もお付き合いの中で、こちら側だけ見ていて、向こう側が見えないと怖い。一人の人間を、一つだけでなく、色々な角度から人とお付き合いするようにした方がよいと思います。

【一七】柴^{さい}や 愚^ぐなり。参^{しん}や 魯^ろなり。師^しや 辟^{へき}なり。由^{ゆう}や 嘖^{がん}なり。

柴（子羔）は愚かである。参（曾子）は呑み込みが遅い。師（子張）は不誠実である。由（子路）は粗野で下品。

孔子が一人ひとりお弟子さんの品評をしています。孔子もこういう言い方をするのですね。面と向かってズバッと言っても子弟関係が壊れなければ良いのですが、壊れてしまうお弟子さんもいたのかもしれない。

周りの人について、あまりそのものズバリと言わないで、柔らかく表現できたら良いと思います。

【一八】子曰く、回^{しいわ}や 其^{かい}れ庶^そからんか。屢^{しばしば}空^{むな}し。賜^しは命^{めい}を受けずして貨^う殖^かす。億^{おもんぼか}れば則^{すなわ}ち屢^{しばしば}中^{あた}る。

顔回は本物に近づいている。ただ本物に近づいている人間は富を気にしないから、食べ物に困ることがある。子貢は財産を増やす能力もあるし、道理について一所懸命考えて発言をすると、真実を言い当てることが多い。大したものだ。

先程はお弟子さんを酷評しましたが、こちらは褒めています。顔回は自分の後継者だと自他共に認めていたお弟子さんですし、子貢の利殖の才によって、一門は助かっていたわけです。顔回は精神的に安定感をもたらし、子貢は財政的に安定をもたらしたと思いますので、お弟子さん達の評価を違った形でしたのだなと考えます。

【一九】子張^{しちよう} 善^{ぜん}人の道^{にん}を問^{みち}う。子曰く、迹^しをも踐^{あと}まず。亦^ふ 室^{また}にも入^{しつ}らずと。

子張が善人の生き方を聞きました。

孔子が言うには、善人は天分があるから大丈夫だけれども、聖賢の道を学ばなければ奥義には到達しない。

よく才能があると言いますが、それだけではいけない。やはり学ばなければ本物にはならないと答えています。

論語から広がる時事判断

何度も申し上げていますが、論語の読み方は、現代に置きかえて考えることが肝要です。或は、自分自身に置きかえて考えてください。

では、本日の論語「季氏周公より富めり・・・」を、現代に置きかえて考えます。

「聚斂して、之に附益す」（重税を課す）という部分で、先程申しました今朝の新聞記事から「トヨタ自動車がアメリカで増産投資 400 億円・雇用拡大 700 名」が浮かびました。トヨタのこの動きは、今の日本のアベノミクスに関連しています。アベノミクスの 3 つの矢は、すべてお金がベースです。第一の矢は、単純な言い方をすれば、お金をじゃぶじゃぶ刷りまくって国中お金を溢れさせるということです。そうすればインフレが始まるということで、インフレターゲット 2%と言っている。

これを判断の三原則の「本質」で考えると、アベノミクスという手段を使ってお金を刷りまくって日本国中にお金を増やす→最終的には国の経済力が高まって、国民の懐が豊かになって、皆が儲かって良かったな・・・ということですが、学ぶ時には、果たしてそれで良いの？ と考える必要はあります。というのは、お金という決済手段を使って国を富ませようということ自体、歴史の流れで見るともう終わりです。大きな文明史論的に言うと、逆行している政策ですから、若干の浮き沈みがあっても成功する訳がないと思っています。

景気を良くしようと言っているのは、目の前に消費税があるからです。今秋に景気が良いと判断したら、消費税を上げる権限を政府は持たされていますから、国民に景気が良くなるという錯覚を持たせなければならない。それには 4・5・6 月の 3 か月間の景気が良いと皆が思って、それが継続していると秋口まで思い続けていることが肝要なわけです。ですから目先だけ、景気が良くなると国民が思うようなことを政府は打ち出さなければならない。従って、お金を沢山刷って、それが国民の懐にも少しは回ってくるという錯覚を持たせる事が、一本目の矢の本質だと思っています。

別の切り口から考えます。ここ数年、新聞の読み方として「三つの視点」をご紹介します。今年度は、自公政権が打つ手を注視する・国債の動向・自然災害の三点です。

自公政権の打つ手として、アベノミクスは何なのか、よくよく注目する必要があります。

二番目の国債については、もう手をかけています。国債は借金証書です。借金の証文を沢山書きまくって、金を借りまくる根拠にしているだけのことです。日銀がお札を刷りま

くり、担保として借金証書を書きまくるという構図です。日本の国が手形を書きまくって、借りる相手は国内の人ばかりだと言っていますが、今は国外にも一所懸命売りに出しています。しかし手形ですから、落とす時は大変です。リーマンショックの時は、饅頭の中に毒を入れて売り出したわけですが、日本も同じことをすると思います。日本の国債は腐っていても「美味しいですよ」と砂糖をまぶして国外に売らざるを得ない仕組みなのですから、そうするでしょう。勿論、国内にも売るでしょう。そうすると先々どうでしょうか？安倍さんが後始末をするのでしょうか？

自公政権が打っている手、アベノミクスでお金を刷りまくる。それを裏付ける担保として、国債を売りまくる。そうやってお金を溢れさせたならば、成長戦略で、公共投資が呼び水となって日本の国内に仕事がどんどん増えてくる・・・という仕組みを考えてやり出したわけです。

他にも新聞記事を見ていると、百貨店の売上げが3か月連続で増加したとか、女性の力を大いに活用して年に1%ずつ65万人の労働力人口を増やそう・・・等々、成長戦略に係る良さそうな話が踊っています。

しかし透けて見えるのは、日本人が報道管制を敷くという事を、強制的でなく自発的にやっているように見えます。昔は大本営発表というものがありましたが、今のマスコミは記者クラブという形で、警察が発表したものをそのまま垂れ流し、政府や各省庁が発表したものをそのまま流して、自分達の足で稼いで記事を書くようなことをしていないと感じます。日本の国がこういう方向に行きたい、マスコミはこういうふうに流してもらいたい、といった動きを政府が誘導している。マスコミはそれに乗っかっている。これが今の日本の状況だと思います。

ですから氣をつけて見ていなければいけないのは、アベノミクスに関して礼賛記事が多過ぎるけれども果たして大丈夫か、自分自身に関係してどうなのか、よく考えて見ておく必要がある。そう思って新聞やネット、マスコミを見ていくとよろしいでしょう。

自然災害については、最近、テレビは鳥インフルエンザに関して特集を始めています。先日、大野参与に話を伺いました。中国で今広がっている鳥の新型インフルエンザは、鶏のウィルスによるものと豚のウィルスの両方が出ているそうです。マスコミは鶏の話ばかり出していて、豚の話は非常に少ない。片方だけで進んでいくのであれば、人→人感染にはならないで済むだろうが、豚と鶏が融合した途端にとんでもない新種が出来て、それが人から人にうつるでしょうということでした。

今、中国は報道管制を敷いているという記事があります。別の記事で、鳥インフルエンザ感染者何名、死亡者何名という数字が少しずつ階段を上るように発表されています。又別の記事で、カンボジアで鳥インフルエンザで8名死亡という記事があります。これらの記事から読み取れる事は、中国は17名死んでいるという最新の数字が出ていますが、報道管制を敷いているのだから、本当のところはどんなのだろうか。カンボジアで8名死んで

いるというのも 1 か月前に出た数字です。その後は話が出ていません。更に、上海を中心に死亡者が増えていて、それが北京に飛び火して感染者が出ている状況があります。上海から北京は 2 時間半くらいの距離です。上海から東京も同じくらいです。ということは、日本にも来ている危険性があると捉えて良いという事です。

自分の知識を沢山持っていれば、いくつかの新聞記事（点）から、それらを融合させて判断することが出来ます。我々が判断をするということはそういうことです。色々な記事を読んだりネットを見て、それを頭の引き出しに入れておいて、「北京で感染者が出た」という大きいキーワードから、本当のところはどれくらいの人数なのか判断する。大野さんの話では、100 人の死亡者が出たと発表されたならば、本当は 1000 人くらい死んでいるかもしれないということでした。また、鳥インフルエンザは野鳥に広がっていますが、野鳥は発病しませんから、ウィルスを持ったままあちこち飛び回っているわけです。すると、北京に飛び火するのと同時に東京にも来ているはずで、中国から日本に輸入される食料についてみても、スーパーで売られるものは少なくとも、外食産業で使っている食材料はもの凄い量です。我々は見えないけれども中国産の食料を相当食べている。そうなると加工の仕方を違えてくると、あっという間に日本中に広がってくるだろうということは容易に推測が出来ます。

新聞記事を見る時には、色々なものをずらっと見て、興味を持ったものを頭の中に残しておく、一つのキーワードが出た時にわっと広がって面になります。面になった瞬間に判断が出来ます。ちなみに私の場合、新聞記事の中で興味をもった記事に赤丸をつけておいて、KJ法の手法を使ってまとめています。

ということで、本日の論語「季氏周公より富めり・・・」から、このように広がってゆくわけです。この広がり方は横の学問の手法を使っています。

お時間になりました。本日はこれにて終了させて戴きます。